



令和5年度 浜松市立北浜北小学校 学校だより

北心だより

令和5年6月12日 NO.3



合言葉「チャレンジ」

学校教育目標

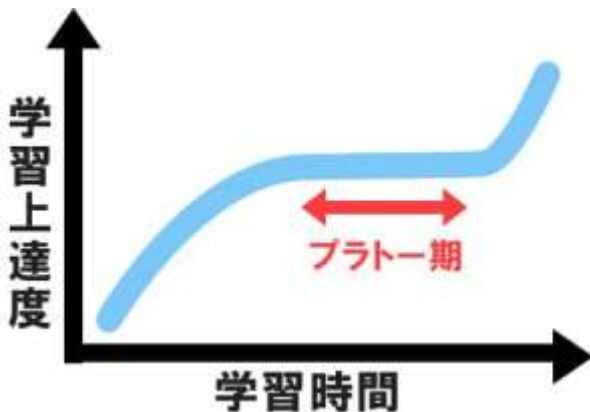
心豊かでたくましく 夢に向かって
輝き続ける北北っ子

学校で育てたい子「主体的に学ぶ子の育成」

北浜北小学校の教員は、「主体的に学ぶ子の育成」を目指して研修しています。

子供たちが見通しをもって自分から学べるように、「どのような授業展開をしようか。」、「どんな声掛けをしようか。」などと考えています。授業の中で子供たちは話し合いをする場がありますが、教員も放課後の時間を使って話し合いの場を設け、子供たちのために何かできるのかを日々議論しています。

プラト一期を乗り越える



技術の向上のために学び続けるとぶつかる壁をプラトーと言います。左図のように、学び始めは右肩上がり能力は向上しますが、ある時を境に能力の向上が停滞してしまう時期があります。ご自身の過去を振り返ってみてください。このプラトーに直面したことはありませんか？部活動で活躍したり、学校のテストで満足いく点数を取ったりするために、どんなに努力しても伸び悩む時期は誰もが経験してきたことでしょう。

必要になってくるのは、学習者自身がこの時期があることを知っておくことです。プラトーの時期が訪れることを知らないと、「自分の限界値はここなんだ。」と決めつけ、努力をしなくなってしまう。一方、プラトーの時期を認知している学習者は、「この時期を超えればもっと成長できる」と考え、努力を怠ることはないでしょう。

また、学習者を見守る方(コーチや監督、教師や保護者など)がプラトーに関して知識を有することで、適切な声掛けをすることができます。学習の成果が出ないという結果だけを見て「サボっているだろう」と叱責してしまうことが一番の問題です。「結果で判断するのではなく、過程を大切にするとよい」と耳にするのは、このプラトーが要因となっているのかもしれない。

プラトーの時期は、「知識を整理し、使える状態にするための熟成期間」と考える専門家もいるそうです。学習者であるお子さんがプラトーの壁に直面した時に、乗り越えていくことができるような声掛けをしたり手立てを考えたりしようと思います。

研修主任 鈴木 創支